

とぎつちよう うちどく すいしん
時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ちゅうがくねん む ねん ふゆごう
中学年向け 2024年 冬号



「おなじところちがうところ」

新井 洋行/作 嶽 まいこ/絵
(くもん出版)

ひと ひと おなじところもあれば、ちがうところもあるよね。わたし ととしきは、同じサッカーラブだけど、わたし は放送委員でとしきは図書委員。りょうちゃんとゆうちゃんはピンクが大好きで、ピンクのものをよくこうかんしている。りょうちゃんは女の子で、ゆうちゃんは男の子だけど、そんなこと、あんまり関係ないみたい。まわりの人との同じところ、ちがうところを見つけてたのしむ本。

うちどく 家読とは

かぞく みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく(家読)」です。むずかしいルールはいりません。かぞく みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

かぞく 同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「やかまし村の子どもたち」

アストリッド・リンドグレン/作 イングリッド・ヴァン・ニイマン/絵 石井 登志子/訳 (岩波書店)

やかまし村には、子どもが6人。私はリーサ。ラッセとボッセというお兄ちゃんがふたりいて、中屋敷にすんでるの。北屋敷にはブリッタとアンナという姉妹が、南屋敷にはウッセという男の子がひとり。やかまし村には、三軒しか家がない。でも、おばけの話をしたり、お誕生日にはジュースパーティをしたり、毎日おもしろいことでいっぱい！

遊ぶことが大好きな作者が書いた、スウェーデンのいなかのおはなし。



「ひぐれのお客・初雪のふる日」

安房 直子/文 松村 真依子/絵 (あすなろ書房)

冬のはじめの、ひぐれどき。うら通りの手芸屋さん、まっ黒いねこが、まっ黒いマントを着て店先に立っていました。マントの裏地につける「薪ストーブの火の色」をした、赤い絹の布が欲しいというのです。おひさまの色や、石油ストーブの火の色ではないとのこと。はじめはあきれていた、お店の山中さんですが…。2つのおはなしが入った、寒い冬にぴったりの童話集。



「たまご 命が生まれるしゅんかん」

ドーリング・キンダースリー社編集部/企画・編集
水島 ばぎい/訳 (BL出版)

たまご う い たまごを産む生きものには、どんな動物がいると思いますか？鳥類や爬虫類、両生類や昆虫類、なんと哺乳類までいるんです。

たまご おお ちい いろいろ いろ たまごには、大きい、小さいのほか、色々な色や、なんだからしぎな形の卵もありますよ。どんな生きものが生まれてくるのかな？そうさうしてみよう！

いのち う かん しゃしん み ほん 命が生まれるしゅんかんを、写真で見る本。

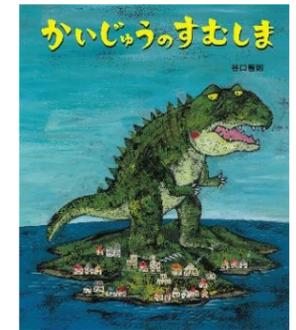


「ぼくがぼくに 変身する方法」

やませ たかゆき/作 はせがわ はっち/絵
(岩崎書店)

ぼくは小学4年生のタクミ。ある日、フリーマーケットで変身ベルトを見つけたので、ほしくなって買ってみた。いつもだったらクラスボスにこわくて言い返せないぼくだけど、「このベルトで変身して、やっつけてやる！」なんて思っ、飛び上がってみたら…本当にサンダー仮面の姿に変身できちゃうとは！

でも、この変身ってどうやってとくの？！



「かいじゅうのすむしま」

谷口 智則/作 (アリス館)

ここは、かいじゅうのすむ島。かいじゅうは、島のじゅうみんたちからこわがられていたので、ひっそり身をひそめてすんでいました。じつは、大雨の時も、日でのり時も、助けてくれたのは、かいじゅうでした。けれども、じゅうみんたちは気づきません。あるとき、となりの島からミサイルが飛んできて…。やさしいかいじゅうは、どうしたでしょう？ 家族といっしょに話し合ってみよう。

とぎつちようつとぎつとしょかん
発行：時津町立時津図書館